

あれが気になる・・・

これも聞きたい!



今年も7会場で 市民対話集会が 開催されました

▼答えた人(左から) 横山市長、臼杵教育長、岩本総務部長、小野政策部長



10月6日の説明会場を皮切りに、市内7カ所で行われた市民対話集会。今年は延べ173人が参加し、まちづくりについて日ごろ感じていることを市長に尋ねました。

ここでは、増え続ける空き家の問題や維持管理にお金がかかる公共施設の問題など、特に関心の高かったものを6ページにわたってご紹介します。

※詳しくはホームページをご覧ください。

みとよと学ぶ
先手の防災

緊急地震速報が放送された**その時!**の対応を学びます。

M's Lesson ⑨
外へ逃げる前に

外へ出るときは、まず乳幼児や病人・高齢者などの安全を確保し、瓦やガラスなどの落下物に注意しながら、慌てず行動しましょう。また、家の中でも外でも、はだしは危険です。割れたガラスの破片などがしないように注意しましょう。

破片に気をつけて!

三豊市の人口 ※平成26年11月1日現在 ()内は前月比
 世帯数 23,348 世帯(+27) 総人口 66,181 人(+19) 男 31,521 人(+8) 女 34,660 人(+11) ※香川県人口移動調査による

- 3 特集 市民対話集会を終えて
- 10 M's Information みとよ暮らしのおしらせ①
 叙勲・危険業務従事者叙勲 / 消費者行政活性化事業講演会 / 安全安心パトロール隊員募集 / 農業委員会委員選挙人名簿登載申請 / 年末年始業務のお知らせ / 軽自動車税 / 税務課からのお知らせ
- 14 みとよHOT ほっとNEWS(ホットニュース)
- 16 M's Information みとよ暮らしのおしらせ②
 国民年金 / 臨時給付金 / がん検診 / 高額療養費自己負担限度額の見直し / 環境衛生課からのお知らせ
- 20 M's 深読みひろば
 じんけん探訪 / 文化財 / 定住
- 22 12月のお知らせ
 募集 / 相談 / 講座・教室 / イベント / 納税のお知らせ / マリンウェブ情報 / 国際交流協会
- 25 保健・相談
- 26 ここ笑み通信 ~子育てするなら三豊が一番!~
 放課後児童クラブ / 児童扶養手当改正 / 保育士・看護師募集 / M's Smile ふおとぎやらい / 乳幼児健診など
- 28 みとよ写真帳 / 編集後記

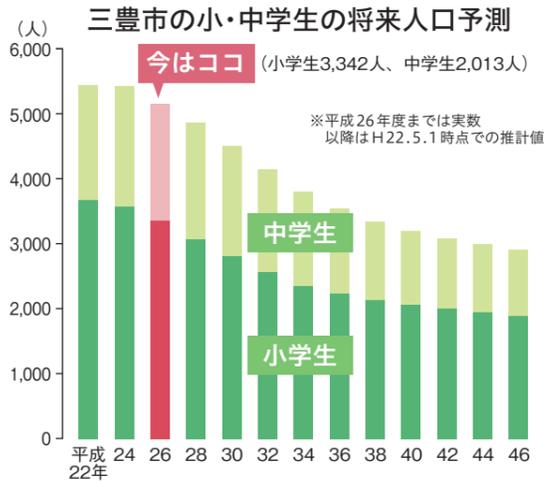


表紙 **今月の市民力**



昨年開催され大好評だった「かがわ・山なみ芸術祭TSUKURUフェスティバルみとよ2013」。その成功を受けて、さらに地域を盛り上げようとがんばって活動しているのが「つくるフェスティバル in みとよ実行委員会」の皆さんです。メンバーは宗吉瓦窯会、まちづくり推進隊三野、かがわ・ものづくり学校、三野町公民館、宗吉かわらの里展示館と、さまざまな団体から集まっています。地域活性化の主役は、その地域の人の。市内のたくさんの方々が自分の地域のためにがんばっているのを見て、皆さんの中に「自分たちも」という気持ちが芽生えてきているようです。

1,300年前にもづくりの基地だったこの場所を地域の核とし、ここを活用して皆さんの人々を呼び込み活性化につなげよう、みなで力を合わせて取り組んでいきます。



昔は、PTAの人たちが当番で給食を作っていた時代がありました。当時は衛生環境も良いとはいえなかったと思いますが、子どもたちはみんな、それを食べていました。

でも、今はそうはいきません。ウイルス対策や細菌対策など、衛

**厳しくなった
管理衛生基準**

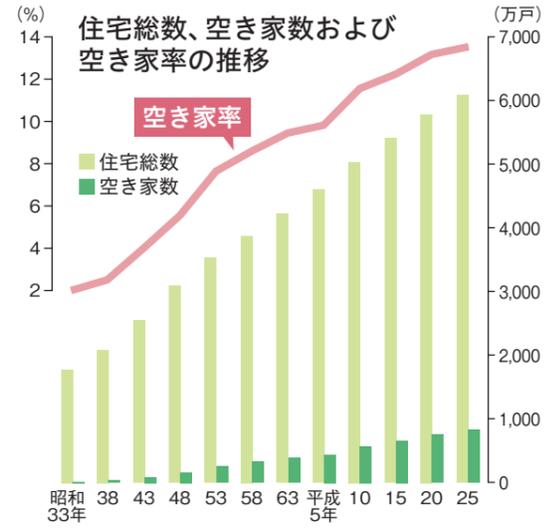
A 子どもたちの安心、安全のために給食センターを建設します。

Q 給食センターの建設については今、どのような状況なのでしょうか。

特に、北部の給食センターについては、建設が凍結になったと聞いています。中には「凍結されて良かった」という意見もあります。

（山本・豊中・詫間・仁尾）

南部については、先日起工式が行われました。北部は現在凍結中ですが、12月議会より議論したいと考えています。



立ちほだかる問題

中でも、老朽化し、廃屋となった空き家は特に深刻です。壊れかけの空き家が隣の家にのしかかっていたり、生い茂った草木が隣の畑にまで伸びていたりするケースもあります。このような場合、お互いの話し合いで解決してもらわなければなりません。

ここで問題となるのが固定資産

A 空き家には2種類あります。老朽化した空き家と、まだ住める空き家です。

Q 空き家が増えて困っています。市はどのような対策を考えているのですか。

地元にも多くの空き家があって、今後どんどん増える可能性があります。草も生い茂っているし「放っておけば犯罪の温床になるのでは」と心配しています。

（高瀬・豊中・詫間）

全国の空き家率、なんと13.5%！
空き家問題は三豊市だけではなく、全国的に深刻な問題です。

しかし、上のグラフのとおり、今後市内の小・中学生の数は減少し、20年後には3千人を切ることも予想されています。そうなったから南部1カ所でもかまえるのではないかという意見も出てきています。また、昨今の建設コストの高騰もあり、できるだけ節約していかなければなりません。現在、北部は計画を凍結して、まだ使える施設を使うことにより事業費を抑制できないか、これまでの手法にとらわれない事業手法はないかなど、対応策を検討しています。できるだけ充実した施設をといて意見もありますが、市としては経費面も考慮して結論を出したいと考

**北部の凍結は
財政的な理由から**

生管理基準が非常に厳しくなり、今の施設では基準に合わなくなってきています。子どもたちの安心、安全を第一に考えると、市内2カ所に給食センターを建設し、調理能力南部3,500食、北部3,000食で給食を提供するのが望ましいと考えました。

**活用してほしい
空き家バンク**

市では、3年前から空き家バンク制度を設けています。年々加速する人口減少問題に対応するため

空き家バンクの現状
(平成26年10月31日現在)

登録物件数	105件
利用登録者数	398件(うち市外266件)
契約数	70件(うち市外35件)
契約者の世帯人数	195人(うち市外89人)

登録などに関する問い合わせは田園都市推進課まで ☎73-3011

このように、買いたい・借りた人の数が、売りたい・貸したい物件の数を大幅に上回っています。物件の登録数が増えると、若者が帰ってきたり、市外からの人が来やすくなったりします。利用者が増えることで人口問題にも好影響を与えますので、自治会などでも空き家の所有者に、ぜひ空き家バンクに登録するよう声掛けをしてほしいと思います。

建設にあたっては専門家の意見や現場の声、保護者の意見などを聞きながら進めてきました。今後も皆さんの声を聞きながら、しっかりとやっていきたいと思っています。

三豊市新学校給食センター
(南部地区)

敷地概要

建設場所 三豊市高瀬町佐股乙420番地ほか
延床面積 2,536㎡

実施対象校

高瀬・山本・豊中・財田の各幼稚園(10園)
小学校(16校)
中学校(3校)

調理能力 1日3,500食

供用開始

平成28年4月(予定)



イメージ図

他にもこんな質問がありました

Q 高齢化が進み、医療費もウォーキング大会を開催するなど、高齢者が元気で活躍できれば、医療費が減るのでは。(高瀬)

A 健康寿命を延ばすこと。これが一番大事だと考えています。

平成22年の国の統計によると、健康寿命と平均寿命の差が約10歳もあります。市では、健康寿命を平均寿命に限りなく近づけることをテーマに、さまざまな事業に取り組んでいます。特に認知症の予防については定期的に講演会を開催するなど、力を入れて行っています。

みなんで歩くウォーキング大会

Q 市内に水族館ができるそうですが、赤字は税金で穴埋めするというのは本当ですか。(高瀬・山本・詫間)

A 建物の建設、運営は民間にやっていただく予定です。

新聞報道などで概要はご存知だと思いますが、詫間町内の造船所跡地のドックを利用した水族館の建設について、日プラ株式会社と協議を重ねています。具体的な内容や規模については検討中ですが、市が建設、運営を行うのではなく、土地の一部を民間に有効活用していただくというスタンスで考えています。赤字が出たからといって市が税金を投入するということは考えていません。この件については、決定したら、皆さんにきちんとご報告します。

※水族館誘致については、広報みとよ11月号4～5ページをご覧ください。

平均寿命と健康寿命(平成22年)

平均寿命	男79.55歳	女86.33歳
健康寿命	男70.42歳	女73.62歳
	↑9.13歳	↑12.68歳

平均寿命：出生時における平均余命
健康寿命：日常的に介護を必要としない、自立した生活ができる生存期間

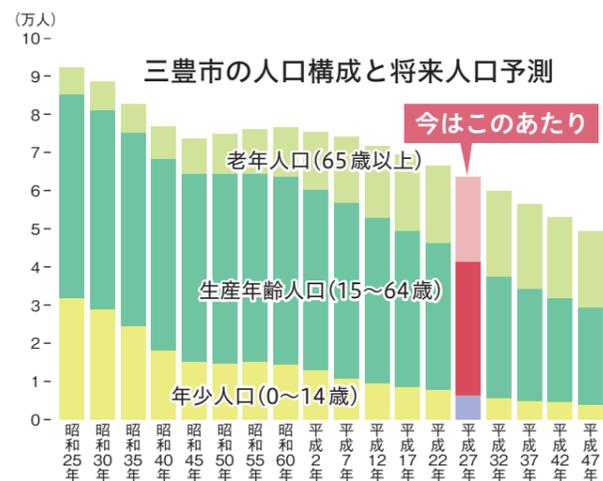
は、とてもいいアイデアです。しかし、例えば市が高齢者の皆さんに「宝山湖周辺を歩こう」と呼びかけた場合、バスの送迎費用など経費がかかってきます。これを公費でまかなうとなると、参加していない若い世代にまで負担がかかってきます。そこで、必要経費を参加者からいただいで開催するというやり方はどうでしょうか。先日、仁尾八朔人形まつりで松賀屋を有料で公開したところ、予想を上回る人が訪れ、次の活動経費が捻出できたと聞きました。市が行う場合も有料にすることで、楽し

いイベントがもっと増えるのではないかと思います。健康寿命を延ばすためには、生きがいを感じることで、文化・スポーツ活動など好きなことを見つけ、楽しく過ごしていくことが大事です。皆さんが健康で長生きできるように、これからも公民館などと協力して「先手の福祉」の充実を図っていききたいと思います。

Q 退職して、いろいろな文化活動に参加しています。自分が楽しむのに施設は無料で使わせてもらって、そのうえ補助金まで出ます。こんなうまい話、本当にいいのでしょうか。(三野)

A おかしいと感じるその感覚、正しいと思います。

補助金をもらって何かをするというのは、昭和50年代の感覚です。これからの時代は、この感覚ではやっていけません。下のグラフを見てもわかるように、今は生産年齢人口2人で老年人口1人を支える時代ですが、これが20年経つと、



1人で1人を支えることになりません。ここで、年齢が上の層の人が下の層の人に圧力をかけてはいけないと思います。圧力をかけると「子どもを産んでも、えらい目するだけや。将来、負担ばかりせないかん」ということになり、下の層がますます減っていきます。

下の層の負担を軽くするためには、今後の活動はできるだけ自己負担で行うという考え方に切り替えていかなければなりません。電気代や修繕費など、施設の管理費

市民対話集会を終えて 地域活性化のカギは市民力

三豊市長 横山 忠始

市民対話集会が終わり、人口や財源が減少する厳しい時代ですが、どの会場でも前向きな意見が多く出され、明日に向かって建設的な意見交換ができました。

年々増加している空き家や耕作放棄地は、個人の不動産所有権に関する問題です。私たち一人ひとりに、自分が所有する不動産に責任を持ち、引き継いだり片付けたら

市民対話集会が終わり、誰か後片付けはしてくれませんか。次の世代から「無責任世代」と言われないよう、自分のものは自分で維持管理する。個人の責任が強く問われる時代となっています。

これからは、評論したり批評したりする人より、たとえ小さくても行動を起こす人が求められています。「やるべき!」と思ったらやる人です。「公共サービス」イコール「行政サービス」の時代は終わりました。人口の減少、財源の減少、社会保障費の増大など、

大きなことは、私たち一人ひとりが市民力を発揮し、少しでも地域のために役に立つことです。受け身であるより、その方が心身ともに楽しく過ごせるし、生きがいを感じられると思います。幸い、三豊市は県下でも有数の「市民力が強いまち」です。これを生かして、まちづくりを進めていきたいと思います。

最近、若い世代が市内各地で、それぞれ独自の新しい動きを活性化させています。また、さまざまな自主的活動を始めた「まちづくり推進隊」は注目を集め、全国各地から多くの視察団が訪れています。時代の流れが、全国的にそうなっているのだと思います。市民力をさらに強め、この流れを大切にしていきましょう。



▲不動の滝カントリーパークを花いっぱいに。まちづくり推進隊豊中の皆さんは、楽しみながら活動しています